大原神社

大原神社は、イザナミノミコトとその 2 人の子供、太陽の女神であるアマテラスオオミカミと月の神のツクヨミノミコトが祀られた神社です。これらは創造を司る神であるため、出産時に母子を守るための縁起の良い場所とされ、子宝を望む家族は大原神社をよく訪れます。大原神社は 852 年に建立され、古いものは 1599 年にまでさかのぼるたくさんの絵馬のコレクションで有名です。大原神社とその付属の建造物並びに川の向こうにある産屋は京都府指定文化財に指定されています。

産屋は小さな茅葺きの小屋で、満身に立ち上がれるほどの広さありません。この産屋は出産時に神の祝福を受けるために神社に面しており、日本古来の死生観としてこの世の生の世界と、あの世の死の世界の境界とされる川のそばに建てられています。なぜなら出産は 2 つの世界の間で起こる物とされているからです。産屋は、少なくとも奈良時代（710 年～794 年）から日本に存在していたようで、この地域では少なくとも 1600 年代から、20 世紀の変わり目まで使われていたようです。この大原神社の産屋は、全国でも数少ない今でも現存する産屋の一つです。

産屋はもう使われていませんが、産屋の地面の砂は神聖なものとされています。また大原神社は、産屋の砂を入れた、安産を願うお守りも販売しています。